

朝夕の涼しさが心地よい初秋の季節です。会員で古事記の音読を初めて約一年と二ヶ月で上・中・下巻を読み終え、今回はテーマに沿った提案の第一回「ヤマトタケルについて」を近藤さんからいただきました。

今後とも、自分自身の学びのために感想などお寄せ願います。

本日は、富山大学の服部征雄先生により

「古事記にみる和薬と香木」とのテーマにて ご講演いただきます。

年に一回の講師によるご提案です。拝聴させていただき、『古事記』の理解につなげたいと存じます。なお、ご提案は、10時10分から約一時間いただき、その後質問などにお応えいただくことをお願いしております。

☆ 桂について、調べました。一部紹介します。

カツラ科の落葉大高木で、雌雄異株。葵祭で祭人の衣装に挿される。材は耐久性に富み、船材、建築、器具等に用いる。平安時代の白木の仏像にはクスノキ、カヤ、に次ぐ素材であった。中国の神仙譚に、月に高さ五百丈のカツラの木が生えていると言う伝説がある。

古事記によると、兄の釣り針をなくしたホオリノミコは、シオツチノカミが竹で編んだマナシカゴにのって、ワタツミノカミの宮殿に着く。その側のカツラの木に登っているとトヨタマヒメと出会う。・・・また、豊葦原の瑞穂の国を統治せよとアメノワカヒコを派遣しても復命しないので、ナキメを遣わす。ナキメはアメノワカヒコの住む家の門前のカツラの木の枝に止まり、仰せをしつこく伝えた。続く・・・ 〈 浅井治美著 「樹木にまつわる物語」より 〉

----- 〈 切り取り線 〉 -----

◎ 服部先生のお話を聞かれての、ご感想をお願いします。

---

---

---

---

---

---

---